

コミュニティ・スクールの導入・充実 ～「地域とともにある学校」をめざして～



下関市教育委員会

山口県下関市



人口 約27万人

(平成28年8月末現在)

学校数 小学校 50校

中学校 22校

(平成28年度)

児童生徒数 18,785人

(平成28年5月1日現在)



コミュニティ・スクールの導入・充実 ～「地域とともにある学校」をめざして～

1. コミュニティ・スクール導入の目的

2. 下関市コミュニティ・スクール推進構想

3. 導入後の子供、学校、家庭、地域の変容

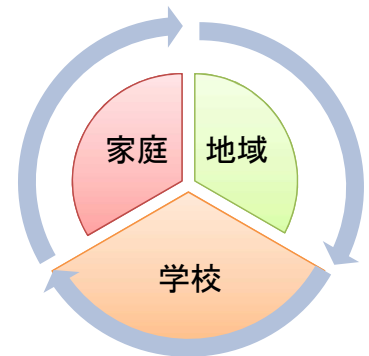
4. コミュニティ・スクールの飛躍に向けて

1. コミュニティ・スクール導入の目的

学校教育にかかる期待は大きく、
学校だけでは十分に対応できない
ことも・・・

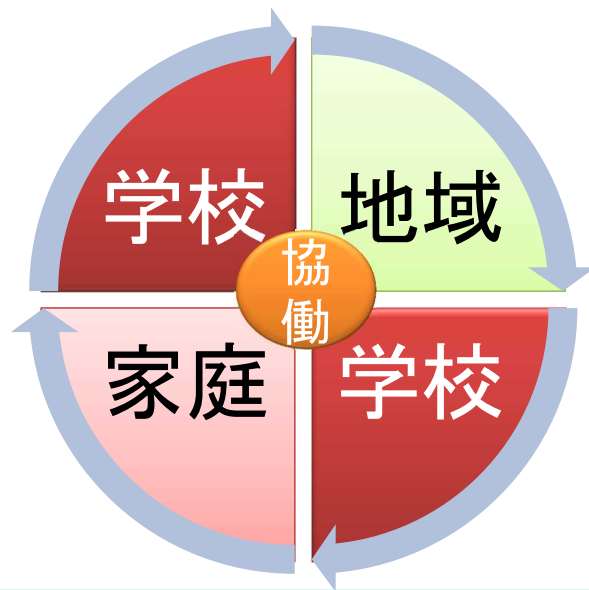


地域とともにある学校



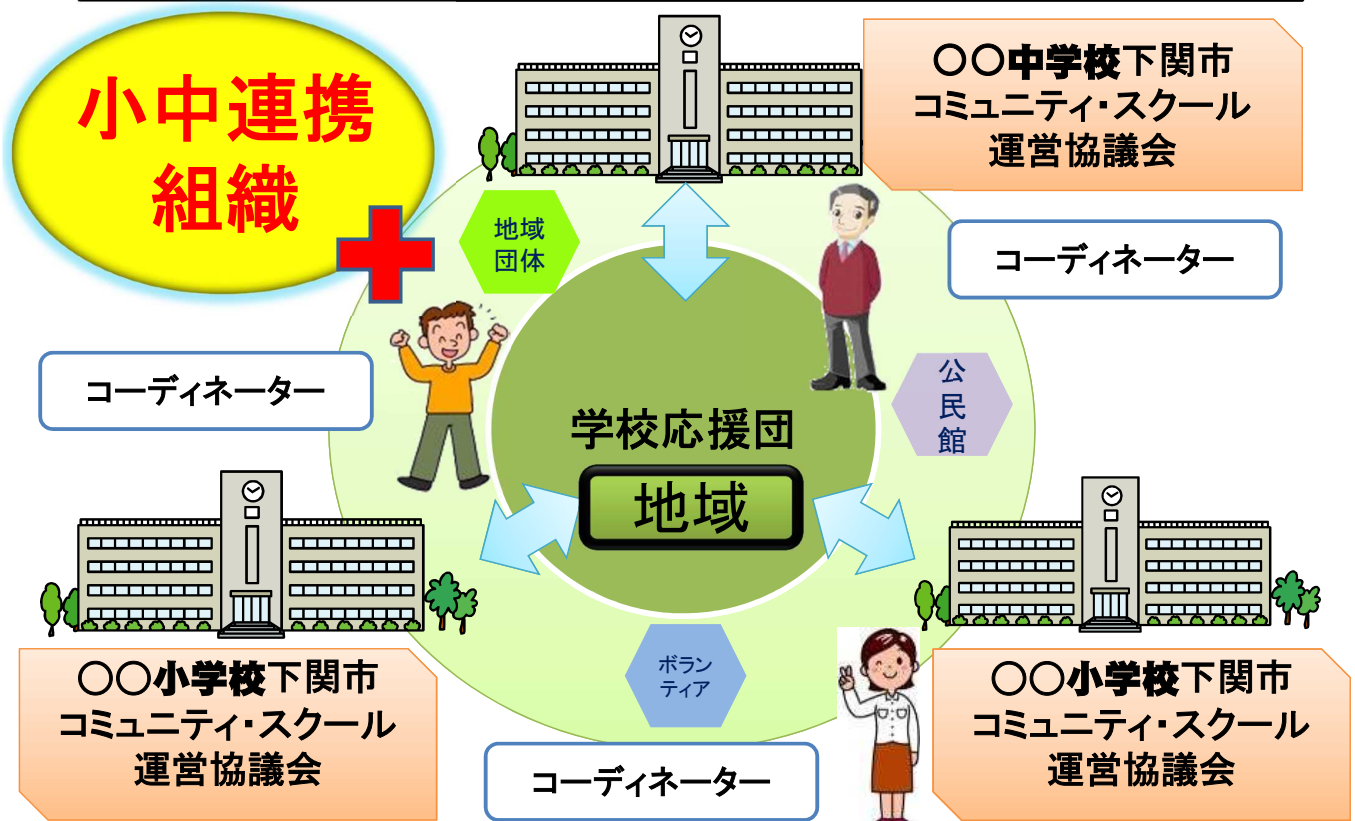
学校への期待の
拡大化

学校と地域の関わりの変化



学校からの積極的仕掛け・展開

下関市コミュニティ・スクール推進構想



下関市コミュニティ・スクール導入の流れ

平成23年度 推進構想の策定	学校や地域、PTA等への構想の周知
平成24年度 コミュニティ・スクール元年	下関市CSへ(協議と情報提供) 「H25. 2下関市コミュニティ・スクールへの指定完了」
平成25年度 コミュニティ・スクール推進の年	財政的支援(学びの場の提供)
平成26年度 コーディネーターの育成活用による更なる コミュニティ・スクールの充実をめざして	コーディネーターの配置 全国CS研究大会in下関(成果の共有) 「H26. 7. 1全小・中学校をコミュニティ・ スクールに指定」
平成27年度 コミュニティ・スクール飛躍の年	コーディネーター全校配置
平成28年度 コミュニティ・スクール飛躍の年 ～小中連携の更なる充実に向けて～	市長部局(まちづくり協議会)との連携

2.下関市コミュニティ・スクール推進構想に向けた体制づくり

I. コミュニティ・スクール運営協議会の設置

II. 学校応援団の組織化

III. コーディネーターの配置

IV. 小中学校の教職員の組織化

↓
地域とともにある学校

下関市コミュニティ・スクール導入の特徴

下関市コミュニティ・スクール運営協議会 (H24～)	比較項目	学校運営協議会 (H26～)
下関市コミュニティ・スクール運営要綱	根拠	地方教育行政の組織及び運営に関する法律
校長	主体	学校運営協議会
報告・説明→ 協議	方針等	報告・説明→ 承認
申し出事項に なし	人事	申し出事項に 明記

I. 下関市コミュニティ・スクール運営協議会の設置

[役割]

知恵やアイデアを出し合う

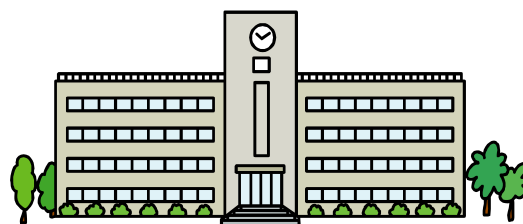
- ・一体となつての学校運営や学校教育活動の充実
- ・地域に開かれた特色ある学校づくりを推進
- ・学校・家庭・地域の教育力の向上

[委員構成]

- ・地域住民、保護者、校長、教職員、学識経験者
教育委員会が適当と認める者
(15名以内)

[任期等]

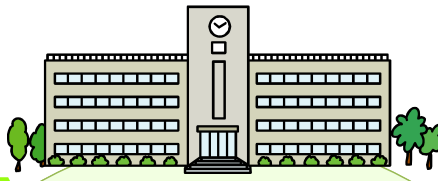
- ・3年間
- ・無報酬



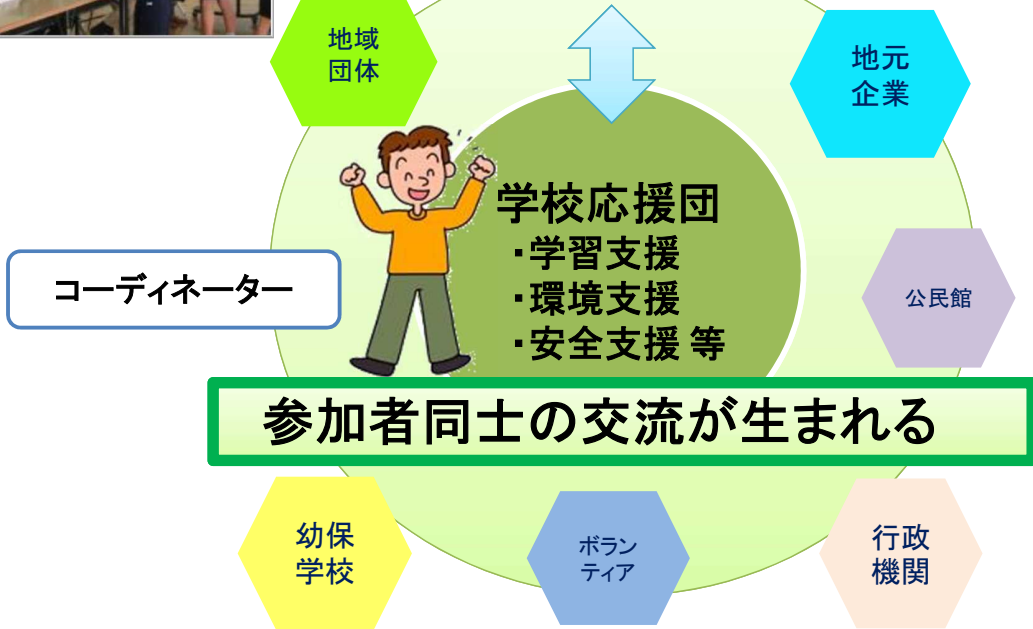
※下関市コミュニティ・スクール運営要綱により設置

※一律に指定したのではなく、準備が整った学校から指定

Ⅱ. 学校応援団の組織化



◇◇小学校下関市
コミュニティ・スクール
運営協議会

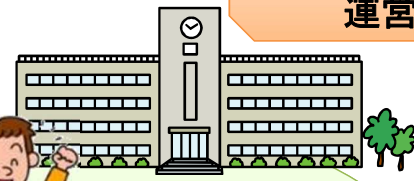


Ⅲ. コーディネーターの配置

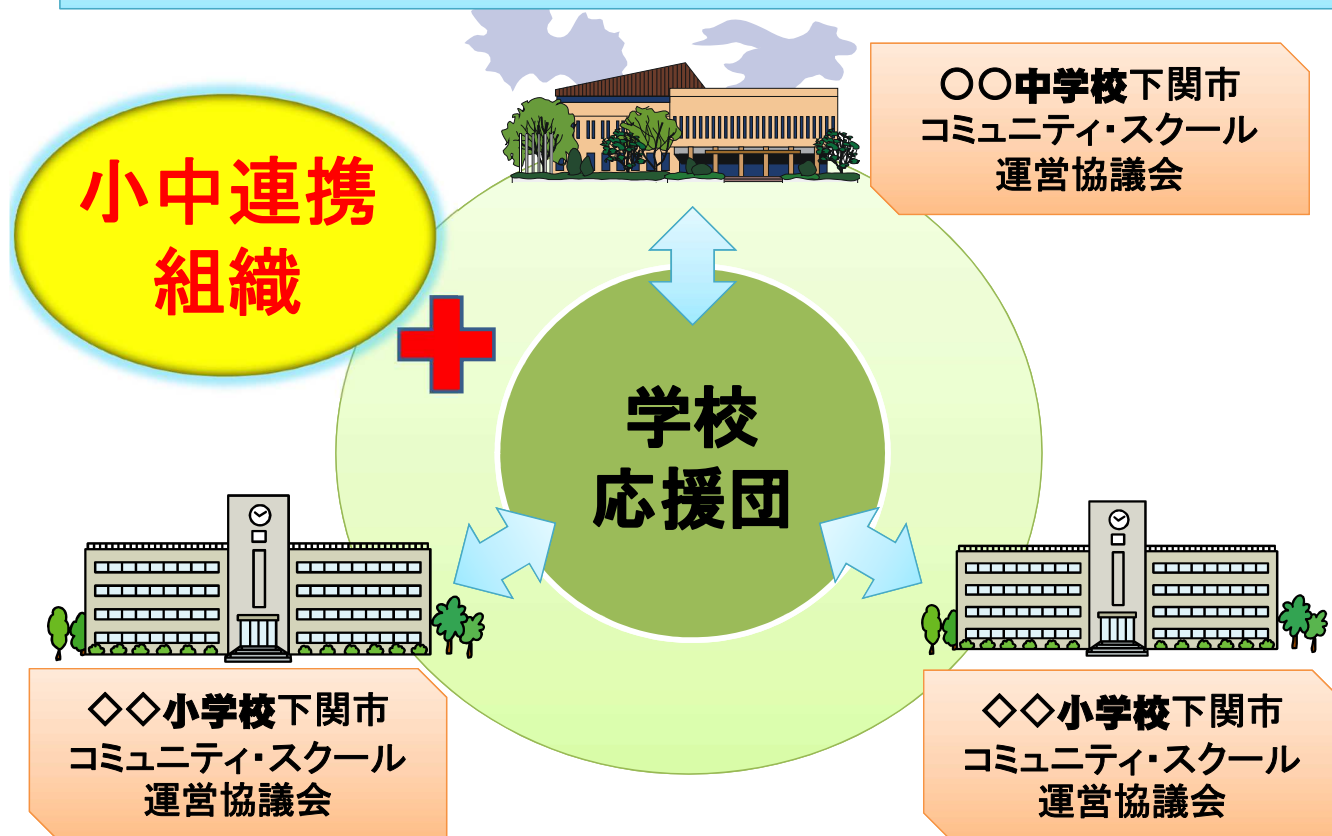
役割

学校と地域の調整役
事業運営のサポート
広報活動 など

◇◇小学校下関市
コミュニティ・スクール
運営協議会



IV. 小中学校の教職員の組織化



下関市コミュニティ・スクール導入時に取り組んだこと

- ①地域とともにある学校づくりのチャンス
- ②地域にコミスクを周知するための委員の人選・依頼
- ③運営協議会と学校の信頼関係の基盤づくり
- ④下関市コミュニティ・スクール研修会への参加と復伝



下関市コミュニティ・スクール導入時に取り組んだこと

既存の活動団体役員を運営協議会委員に
選任することによって 各団体やボランティアが
連携した取組へと発展する流れができた

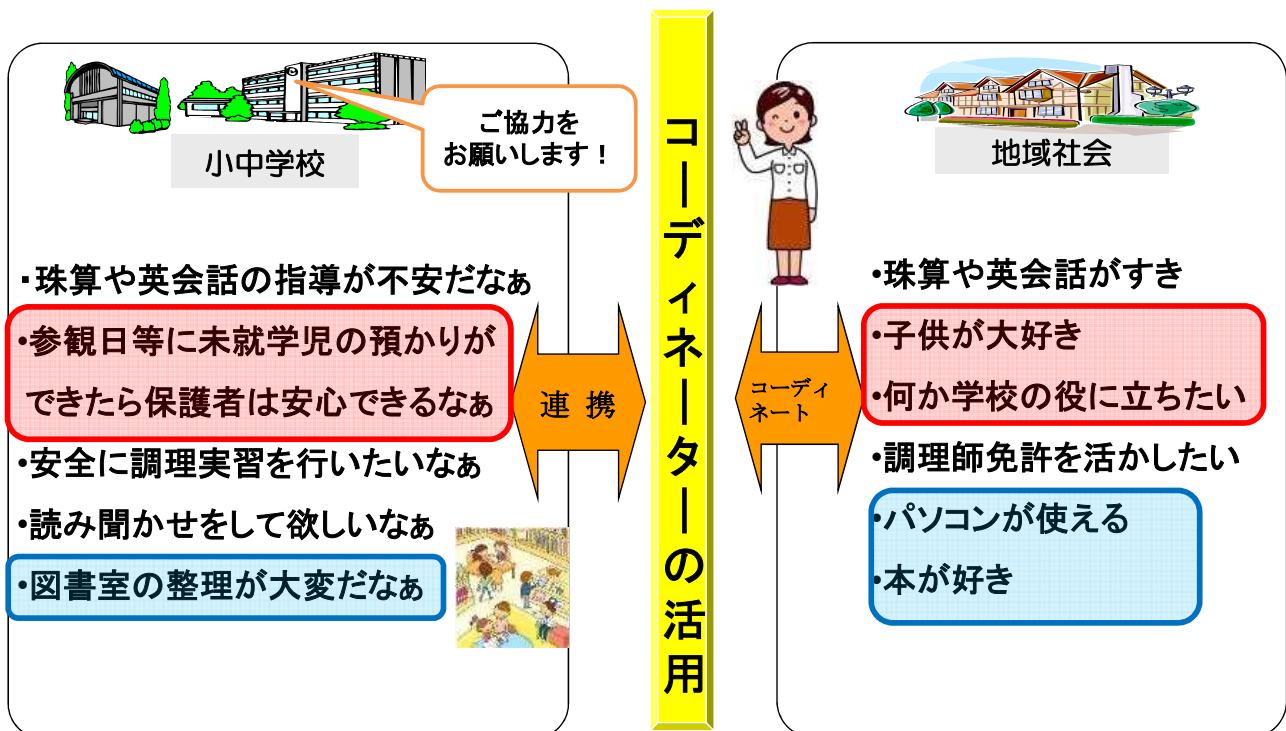


中学生への読み聞かせ



俳句相撲

下関市コミュニティ・スクール導入時に取り組んだこと



学校への理解や人と人のつながりが深まる

下関市コミュニティ・スクール導入時に取り組んだこと

月1回中学校区校長連絡会からスタート(会場持ち回り)

成果: 様々な情報交換ができた、行事等の調整ができた
学校の組織と学校運営協議会の組織を
連動させることができた(H24)



3校の教職員及び学校運営協議会の組織を
「知」「徳」「体」の3部会制に改編(H27)



部会ごとの研修会に学校運営協議会委員も参加

下関市版コミュニティ・スクール(H24)から コミュニティ・スクール(H26)への移行に伴うメリット

- ①法に基づく学校運営協議会の仕組みに発展することで
組織的・継続的な連携・協働体制の確立ができた。
- ②基本方針の承認を通じて、地域住民や保護者に対する校長の
説明責任の意識が向上し、学校課題や情報をこれまで以上に
開示することで、**風通しの良い学校運営**が可能となった。
- ③学校運営協議会委員に、学校運営の**当事者としての意識と責任感**が醸成され、学校と地域がさらに密接に繋がることで、
学校運営の改善・充実を図ることができた。



3. 導入後の子供、学校、家庭、地域の変容

子供にとっての魅力

- ①「多様なコミュニティ」に参加し、「多様な活動」を体験し、自分を表現できる

地域社会との関わり



学びや体験活動の充実

自己肯定感の育成、ふるさとへの愛着や誇り

- ②地域の担い手としての自覚の高まり
- ③防犯・防災対策等による安心・安全な生活の保障

3. 導入後の子供、学校、家庭、地域の変容

学校にとっての魅力

- ①地域の人々の理解と協力を得た学校運営ができる
- ②地域人材を活用した教育活動を充実させることができる
- ③子供たちと向き合う時間が増える



3. 導入後の子供、学校、家庭、地域の変容

家庭にとっての魅力

- ①学校や地域に対する理解が深まる
- ②地域の中で子供たちが育てられているという安心感がある
- ③保護者同士や地域の人々と人間関係が構築できる

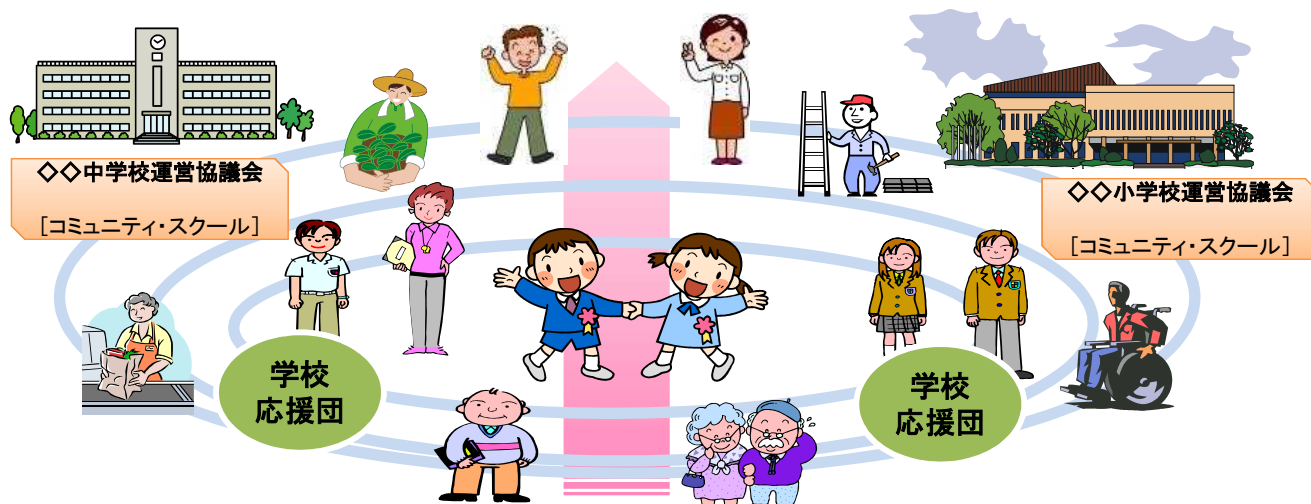
3. 導入後の子供、学校、家庭、地域の変容

地域にとっての魅力

- ①経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながる
- ②学校が地域のよりどころになる
- ③学校を中心とした地域ネットワークが形成される
- ④地域の防犯・防災体制等の構築ができる



4. 下関市コミュニティ・スクールの飛躍に向けて



つながり 世代を超えて、同じ地域の一員として

元 気

子供・学校・家庭・地域



4.下関市コミュニティ・スクールの飛躍に向けて

市教委として活性化を図り、継続的な支援をするために



**I . 子供が地域を意識する仕掛け
地域住民の方々が学校に集まる仕掛け**

II . 子供の成長・変化に係る情報発信の工夫

III . 学校への継続的な支援

下関市立小・中学校実践事例集 下関市コミュニティ・スクールリーフレット



コミュニティ・スクール推進事業予算

■平成24年度	854 (千円)
■平成25年度	1,737 (千円)
■平成26年度	13,504 (千円)
※全国CS研究大会関係費(1,575千円)を含む	
■平成27年度	11,699 (千円)
■平成28年度	11,612 (千円)


市教委からの財政的支援

- ①コーディネーター謝金
各校120,000円
 - ②学校応援団を含む外部指導者招聘謝金
各校16,000円
 - ③中学校区で企画する地域研修会(講師への謝金・旅費)
各校19,500円
 - ④コミュニティ・スクールにかかる消耗品
各校12,000円
- ※4項目全て年間の上限

学校の実情に合わせて
できることから始めていく



地域の力を**学校**へ
学校の力を**地域**へ



**下関市内全小中学校 72校
それぞれの実情に応じた
子供も大人も行きたい
「地域とともにある学校」**



下関市教育委員会